

今年の夏休み旅行のトレンド

大分市武漢事務所 全 淑麗

中国では、毎年7月初旬までが中学校、高校、大学の受験シーズンです。これを超えると夏休みシーズンに入ります。学校によって開始日はバラバラですが、大体6月末から8月末まで2ヶ月ほどです。試験勉強のプレッシャーから解放され、心身共にリフレッシュしたいという気持ちから、多くの人が旅に出かけます。「夏休み旅行」商戦の幕開けです。中国大手旅行予約サイトの「同程国際旅行社」が6月に発表した「2021年夏休みシーズンにおける移動・旅行トレンド予測報告」によると、回答者の64%が「今年の夏休みに旅行の予定がある」との回答でした。

7月上旬までの中国国内の新型コロナワクチンの累計接種件数は、既に13億件以上、武漢市では1,600万件に達しました。新型コロナの影響により海外旅行は禁止されていますが、国内旅行は今年初めから徐々に回復し、軌道に乗っています。

今年7月1日は中国共産党創立100周年でした。中国全土で、共産党の革命の聖地を巡るツアーがブームになっています。共産党の党旗の色である「赤色」にちなんで「赤色旅遊」と呼ばれており、赤色観光地を巡り、現地の景色と美食、文化等を組み合わせた観光ツアーは、特に人気が高いようです。

中でも、古くから水陸交通路が集中する交通の要衝であり、三国志の時代から「兵家必争の地」である武漢は、悠久の歴史を持つことから、豊富な赤色文化資源と自然観光資源で、家族旅行の人気観光地になっています。黄鶴楼、古琴台、東湖などの有名な場所以外にも、近年「映えるスポット」として雲華林、漢街、歡樂谷など数多くの観光地があります。今回は、その中から武漢を代表する名所を2箇所ご紹介します。

【漢口里～武漢風味文化街】

「里（りい）」というのは、19世紀末期に起源した武漢の代表的な民居集落のことです。「漢口里」は武漢園芸博覧会テーマパークの入口に復元され、古くから漢口にあった「汪玉霞菓子屋」、「老万城酸梅湯」、「小桃園鶏スープ」等の老舗商店があり、町の様子や人々の生活スタイルなど、武漢の歴史、物語、民俗、味覚を体験できる場となっています。また、観光業を復興させ、更なる集客を図るために、夏季限定の「竹床文化祭り」が開催されています。エアコンのなかった時代の竹で編んだベッド（竹床）で納涼する武漢の風習を再現しており、



武漢風味文化街の景色（漢口里）

※写真は武漢事務所スタッフ撮影

今年の夏休み旅行のトレンド

大分市武漢事務所 全 淑麗

竹床に座り、シュロという葉で作った団扇を手に持ち、野外で映画を見たり、カラオケをしたり、お見合いパーティーに参加したり、吉慶街パフォーマー達の演出を観ながら、麻辣ザリガニ、枝豆、冷やし麺、緑豆汁、冷たいビールなど種類豊富な夜食を楽しんだりすることができます。これこそ正真正銘「武漢人」の夏の夜の過ごし方です。



「竹床文化祭り」の様子（漢口里）

※写真は武漢事務所スタッフ撮影

今年の夏休み旅行のトレンド

大分市武漢事務所 全 淑麗

【糧道街～美食文化街】

長江の港に近い、黄鶴楼の丘の下、辛亥革命記念館裏の、毛沢東故居周辺に、武漢市で最も狭いことで有名な街「糧道街」があります。昔ながらの古い建物が多く残っており、地元住民が道路の緑地帯に座り、お喋りしながら納涼しています。こうした日常の生活風景は、写真に映し出すと、まるでタイムスリップしたかのようです。また、「糧道街」の近くには100年の歴史を持つ名門校が集中しています。武漢には学食のある学校が少なく、お弁当を食べる習慣もないので、学校付近の飲食店で食事を済ませることが一般的です。そのため、道路の両側には美味しい飲食店が数えきれないほど密集しています。昼食、夕食の時間以外にも下校時間になると、どのお店も利用客で溢れかえっています。老舗で評判のいいお店になると、開店から閉店まで、一日中行列ができていているところもあり、「糧道街」は一日かけても回り切れない、食い倒れの美食街となっています。

コロナが終息した際には、ぜひ武漢に来て、ご自分の目で、ご自分の舌で、武漢の風情を味わってください。



美食文化街の飲食店（糧道街）



人気グルメの焼売店（糧道街）

糧道街の街並み
遠いところに見える建築物は「黄鶴楼」

※写真は武漢事務所スタッフ撮影